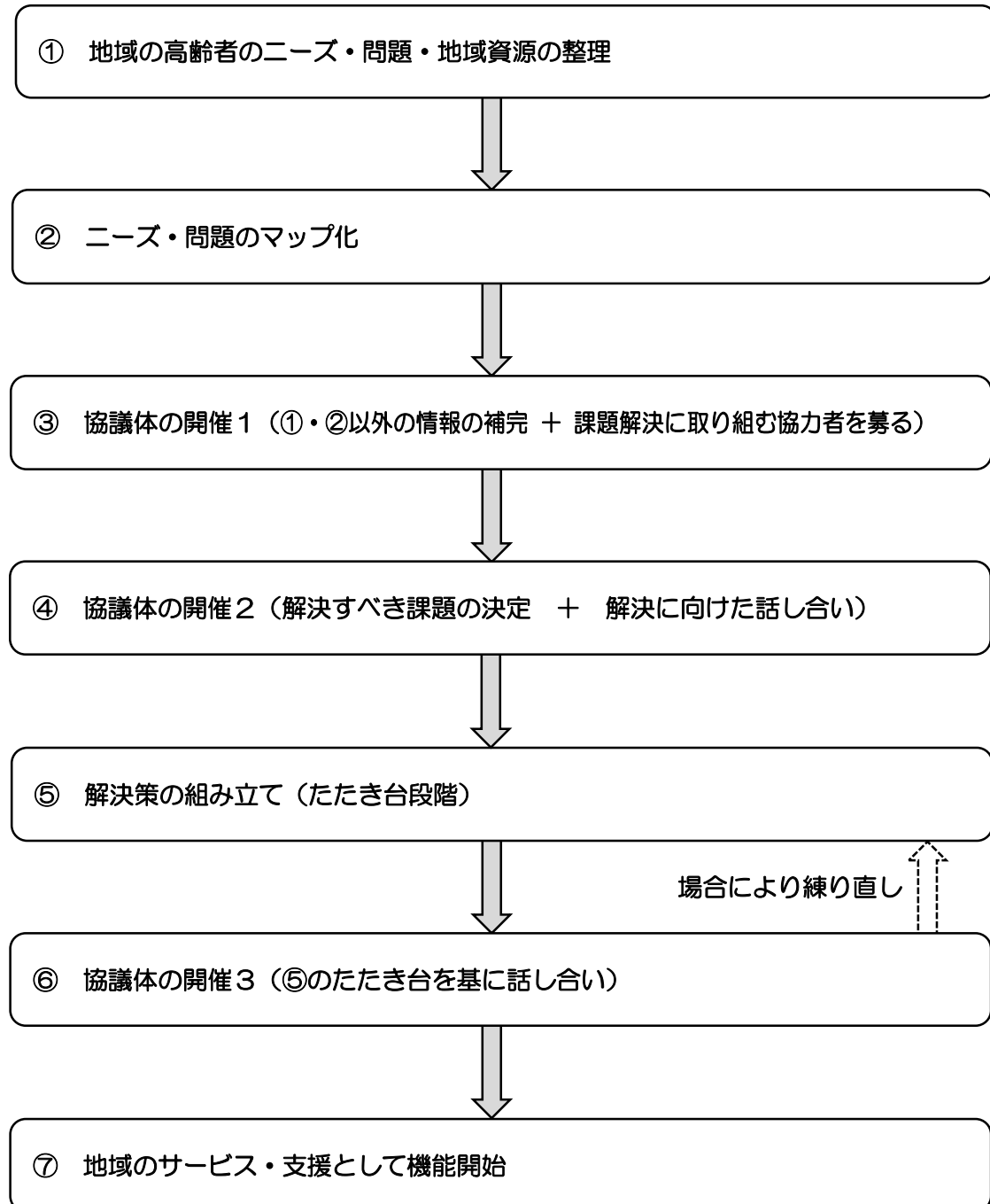


・ 議事 (3) 第2層生活支援コーディネーターの業務の進め方について

○第2層生活支援コーディネーターの業務の進め方 (案)



※①・②については随時行うこととし、基本的には③～⑦を繰り返すことを想定している。

○各段階の業務内容

段 階	業務内容
① 地域の高齢者のニーズ・問題・地域資源の整理	・現時点で1層・2層が持っている情報をデータベース化する。
② ニーズ・問題のマップ化	・①の情報をマップに落とし込む。
③ 協議体の開催1 〔 情報の補完 + 協力者を募る 〕	・協議体参加者を参集する。現時点では、町会・在宅福祉委員・民生委員・くらしのサポーター等を想定している。 ・①と②で整理した情報を開示し、他にニーズや問題があるかを協議体参加者に投げかける。 ・ニーズや問題の解決に向けた話し合いに協力してくれる方を募る。(以降、基本的にこのメンバーで協議体を開催)
④ 協議体の開催2 〔 課題の決定 + 解決に向けた話し合い 〕	・出されたニーズや問題に基づき、解決すべき課題を決める。このとき、何から始めるかについては、住民の意見を尊重する。(主体性を引き出す) ・どうしたら課題を解決できるか話し合う。(ワークショップ等)
⑤ 解決策の組み立て (たたき台段階)	・協議体で出された意見を基に、2層コーディネーターが持つネットワークを活用しながら、解決策のたたき台をつくる。 ・1層コーディネーターは2層コーディネーターからの相談や協力依頼に随時応じる。
⑥ 協議体の開催3 (たたき台を基に話し合い)	・解決策のたたき台について意見を伺うため、協議体を開催する。(参集者は課題の関係者のみで可)
⑦ 地域のサービス・支援として機能開始	・関係者と調整のうえ、サービス・支援を展開する。

○第2層生活支援コーディネーターとの協議を要する事項

段 階	協議を要する事項
① 地域の高齢者のニーズ・問題・地域資源の整理	・データベース化の際の書式の定義
② ニーズ・問題のマップ化	・マップ化を必須とするか ・マップ化する場合の媒体・描き方の定義

○論点

第2層生活支援コーディネーターの業務は基本的に上記の進め方で良いか